

Better Health, Brighter Future

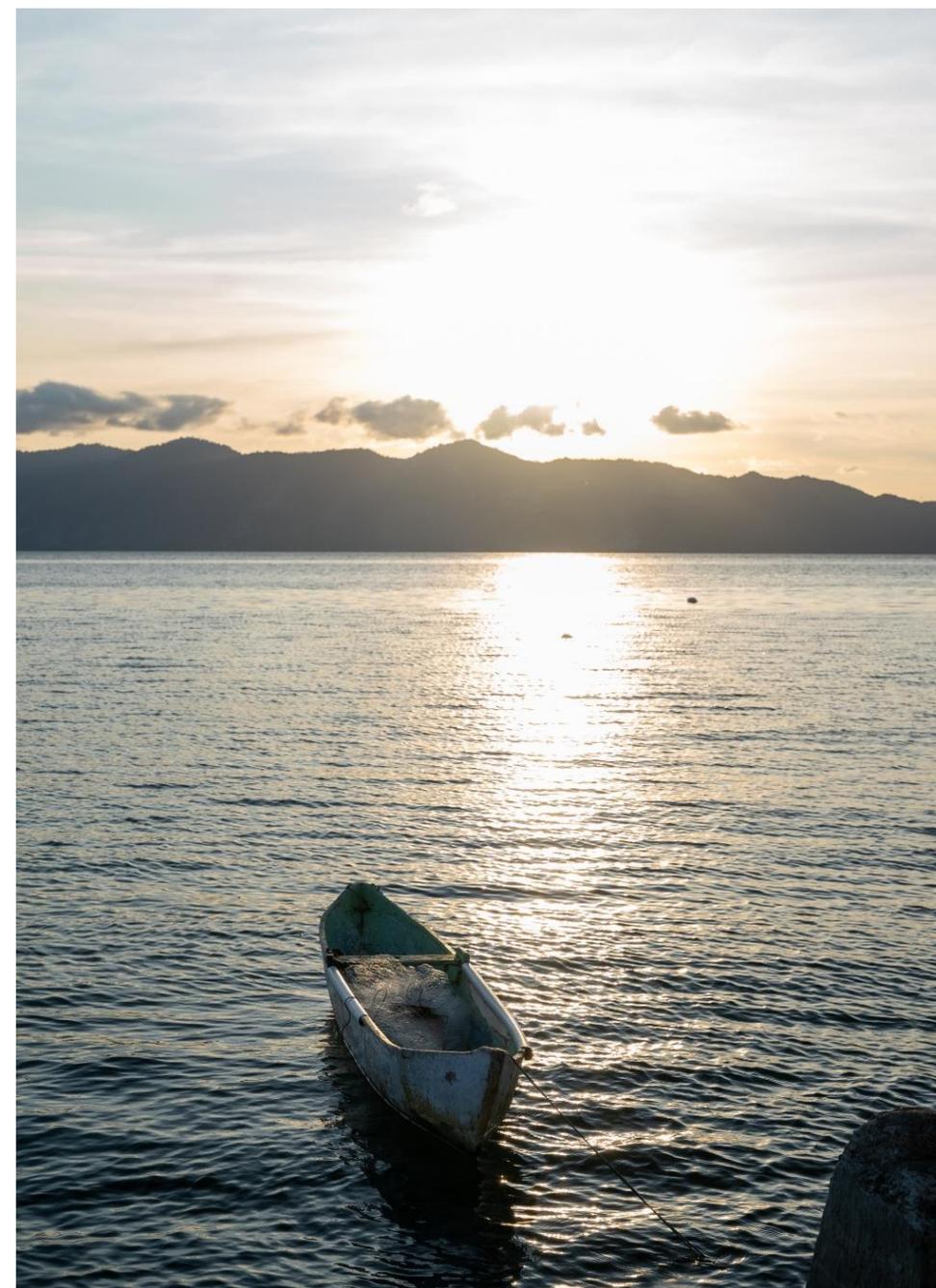
SASB インデック報告書 2024年

2023 年度実績

この指標は、サステナビリティ会計基準審議会（SASB）のバイオ・製薬産業基準に準拠した開示内容をまとめたものです。この指標は、[2024 年版統合報告書](#)、[2024 年版 ESG データブック](#)および[Takeda.com](#) のサステナビリティ情報開示ページに記載されている当社のサステナビリティに関する優先事項、コミットメント、イニシアチブに関する内容を補足するものです。SASB の基準に関する詳細は、[SASB.org](#) をご覧ください。

ESG 報告の最適化は、報告プロセスを反復することで実現されます。私たちは、このレポートフレームワークのすべての指標について報告しているわけではありませんが、透明性とステークホルダーに対するコミットメントを示すため、データ収集プロセスと重要な ESG 情報を継続的に報告するよう努めます。

報告期間は、特に明記されていない限り、2023 年度（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）を対象としています。



臨床試験参加者の安全

HC-BP-210a.1

臨床試験の品質と患者の安全性を確保するための管理プロセスについての、世界の地域別の説明

臨床試験は、科学的に設計された治験実施計画書に基づき、被験者への潜在的なリスクと被験者および社会にもたらされる可能性のある利益とのバランスを考慮して計画されます。ヘルシンキ宣言 2013、医薬品規制調和国際会議（ICH）における医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令（GCP）、欧州製薬団体連合会（EFPIA）／米国研究製薬工業協会（PhRMA）の原則を含む国際基準やルールに従って、法規制を遵守して実施されます。

臨床試験の計画・実施、医師による十分な説明を受けたうえで患者さんが納得して治療を受ける（インフォームド・コンセント）ための手順、試験参加者データの管理についても、当社の価値観であるタケダイズムと倫理基準に従って実施しています。臨床試験は、試験参加者や患者さんの身体的・精神的な健康に配慮すると共に、試験を通じて十分な知見が得られるように計画されます。臨床試験にあたってインフォームド・コンセントの手順に則り予測される効果や起こり得る副作用などについて十分説明した上で、患者さんが自らの意思で試験参加の是非を判断いただけるようにしています。臨床試験のプロセスは、試験参加者の肉体的・精神的な健全性を保ち、患者さんのプライバシーや個人情報を保護するように策定しています。

治験実施施設で治験を担当する主任医師および副医師は、ICH GCP、その他の適用される原則と基準および現地の規則に従って業務を遂行することに合意しています。臨床試験に携わる従業員には、タケダの行動規範、倫理・コンプライアンス・ポリシー研修、患者さんや健康なボランティアを対象とした研究の実施に関連する生命倫理基準など、各自の職務に関連するタケダの方針および標準業務手順書の研修を実施しています。

タケダのグローバルスタンダードに基づき、GCP に準拠した独立倫理委員会の承認または肯定的意見を得るまでは、治験の開始や大幅な変更は行いません。タケダの研究開発およびグローバルクオリティ部門では、患者さんの保護を重視し、臨床試験全体を通して品質の確保に努めています。社内では、基準および手順書を通じて、品質と患者さんの安全性を確保するための行動を世界共通で示しています。社内監査も実施し、プロセスおよび手順に逸脱がないかを評価しています。また、さまざまな規制当局からも定常査察を受け、規制要件の準拠に取り組んでいます。問題発生時の管理やエスカレーションプロセスも社内の品質システムに組み込まれています。また、多くの国では、治験参加者は個人情報の取り扱いについて、その国のデータ保護当局に懸念を申し立てる権利を有しています。欧州のデータ保護当局のリストは [こちら](#) をご覧ください。

患者さんの命にかかわる治療を早期にかつ中断されることなく受けられるようにするという目標は、私たちの医薬品アクセス戦略の重要な要素です。治験後アクセス（Post-Trial Access: PTA）は、臨床試験終了後も、治験薬による治療を必要とする適格な治験参加者が治療を継続できるようにすることに貢献しています。PTA の仕組みについての詳細は、[Takeda.com](#) をご覧ください。

臨床試験終了時に、治験担当医師に対し、治験実施施設の被験者レベルのデータを提供しています。タケダがスポンサーとなって実施した第 2-3 相の治験や第 4 相の承認化合物の介入がある臨床試験、および当社の医療機器を評価する臨床試験について、試験結果を記載した原稿を、試験終了後（市販品の場合）、または規制当局による承認、または治験薬の開発中止または終了の判断後、18 カ月以内に提出するよう努めています。タケダの臨床試験に関する詳しい情報は [こちら](#) をご覧ください。

臨床試験参加者の安全（続き）

<p>HC-BP-210a.2</p>	<p>臨床試験の管理と医薬品安全性監視に関連する FDA スポンサー査察のうち、任意対処指摘（VAI）および強制対処指摘（OAI）となった件数</p>	<p>タケダは臨床開発プログラムに対する医薬品の臨床試験の実施の基準（GCP）における査察に対し、問題なく対応しています。米国食品医薬品局（FDA）が実施した GCP 査察の詳細は、「FDA 査察分類データベース」の「バイオリサーチ モニタリングプロジェクト」に記載されています。これらの査察はいずれも問題なく終了しています。</p>
<p>HC-BP-210a.3</p>	<p>開発途上国での臨床試験に関する法的手続による金銭的損失の総額</p>	<p>この指標の開示については、2024 年版 ESG データブックをご覧ください。</p>

医薬品へのアクセス

<p>HC-BP-240a.1</p>	<p>医薬品アクセスインデックス（ATM インデックス）で定義されている優先疾患および優先国におけるヘルスケア製品へのアクセスを促進するための活動とイニシアチブの説明</p>	<p>タケダは、患者さんに医療、医薬品、ワクチンをお届けすることを最優先課題としています。私たちは、十分な医療が受けられない地域において、人々の暮らしを豊かにする医薬品やワクチンへのアクセスを拡大するために、総合的かつ持続可能な取り組みが必要であると考えています。様々なステークホルダーとの対話を通じて、患者さんの医薬品へのアクセスの障壁に積極的に取り組み、医療制度を変革し、世界中の人々の生活を向上させます。</p> <p>患者さんの医薬品へのアクセスを加速するという取り組みは、私たちの企業理念に組み込まれており、世界中で、そしてすべての治療領域にわたって私たちが実行しているものです。</p> <p>低中所得国および医療制度が発展中の国では、以下の 3 つの戦略的必須項目を中心として、医薬品アクセスの取り組みを実施しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者さんの治療過程全般において医薬品アクセスの障壁をなくす 2. タケダの革新的な治療薬やワクチンに対する資金面の障壁に対応する： <ul style="list-style-type: none"> ▪ 段階的な価格設定 ▪ 購入しやすさに基づいた患者さんの医薬品アクセス支援プログラム ▪ 価値に基づいたヘルスケアモデル 3. 社会的価値を生み出す提携をする <p>医薬品アクセスに関する詳細については、医薬品アクセスに対するタケダの見解及び進捗報告書「プログレスレポート 2023」をご覧ください。</p>
---------------------	---	---

医薬品へのアクセス（続き）

HC-BP-240a.2	医薬品事前認定プログラム（POP）の一部である WHO の事前認定済医薬品リストにある製品のリスト	<p>タケダは WHO の承認済医薬品リストに登録されている製品を保有していません。¹</p> <p>タケダのワクチンビジネスユニットが目指す未来は、最も重篤な感染症に対処するワクチンによって、世界中の人々の健康を守ることにあります。私たちの使命は、公衆衛生における最も困難な問題に取り組む革新的なワクチンを開発・提供し、世界中の人々の生活を向上させることです。タケダのグローバルワクチン事業は、デング熱、COVID-19、インフルエンザに取り組むためのイノベーションを展開しています。</p> <p>タケダのワクチンに関する取り組みは、こちらをご覧ください。</p> <p>ワクチンに関する取り組みに加え、当社は CARE（Corona Accelerated R&D in Europe）プログラムの共同リーダーを務め、GHIT（Global Health Innovative Technology）Fund にも参加しています。</p> <p>CARE プログラムは COVID-19 に対する喫緊の治療法の発見と開発に特化しており、この種のものとしては最大の事業です。同プログラムでは、学術機関、非営利の研究機関、製薬会社などから第一人者が集まり、COVID-19 および将来のコロナウイルスの脅威に対する治療法の開発、疾病の長期的な解決を目指しています。</p> <p>GHIT Fund は、治療薬やワクチン、診断法など、人々の命を救うためのイノベーションに関する日本の専門性と能力を活かし、発展途上国における HIV/AIDS、結核、マラリア、顧みられない熱帯病（NTDs）の流行防止に注力しています。タケダは、GHIT への資金拠出に加え、GHIT の製品開発パートナーと協力し、マラリア、NTDs の研究プログラムに取り組んでいます。</p> <p>CARE プログラムの詳細については、こちらをご覧ください。</p> <p>GHIT Fund の詳細については、こちらをご覧ください。</p>
--------------	---	--

購入しやすさと価格設定²

¹ 2024 年 3 月 31 日時点。

² 最新の SASB によるサステナビリティ開示基準（バイオテクノロジー・医薬品）から HC-BP-240b.1（オーソライズド・ジェネリック製品の市場投入を一定期間遅らせるための支払いや規約を含む、略式新薬申請（ANDA）訴訟の和解数）が削除されたことから、この情報は非開示としています。

購入しやすさと価格設定 (続き)

<p>HC-BP-240b.2</p>	<p>前年と比較した米国製品ポートフォリオにおける(1)平均定価および(2)平均正味価格の変化率</p>	<p>私たちは、価格設定の哲学 (米国における価格設定方法ページ下) において、米国のポートフォリオ全体の年間平均定価と平均正味価格の変化率を開示しています。当社の算出方法および過去のデータについても、同リンク先をご覧ください。</p> <p>このデータは会計年度ベースではなく暦年ベースで収集されているため、この SASB 表のその他の情報については、記載されている期間と乖離があります。</p>
<p>HC-BP-240b.3</p>	<p>前年と比較して増加率が最も大きかった製品の(1)定価と(2)正味価格の変化率</p>	<p>タケダでは、現在この指標に基づく報告を行っていません。米国の製品価格改定において、どの指標を開示するかについては、米国における価格設定方法をご覧ください。</p>

医薬品の安全性

<p>HC-BP-250a.1</p>	<p>食品医薬品局 (FDA) の MedWatch 安全性アラート (医薬品) データベースに掲載されている製品のリスト</p>	<p>安全性に関する警告が出ているタケダの医薬品は、FDA MedWatch Safety Alerts のヒト医療製品データベースに掲載されています。</p>
<p>HC-BP-250a.2</p>	<p>FDA の有害事象報告システムで報告された製品に関連した死亡者数</p>	<p>FAERS の詳細については、FDA Adverse Event Reporting and System (FAERS) のパブリックダッシュボードをご覧ください。</p>
<p>HC-BP-250a.3</p>	<p>リコール件数、総リコール数</p>	<p>この指標の開示については、2024 年版 ESG データブックをご覧ください。</p> <p>過去の製品リコールは、FDA Drug Recalls データベースで確認できます。</p>
<p>HC-BP-250a.4</p>	<p>回収、再利用、または廃棄が承認された製品の総量</p>	<p>タケダは、Pharmaceutical Product Stewardship Working Group (PPSWG)を含む関連業界団体と協力し、医薬品の回収プログラムに支援・参加をしています。また、患者さんやエンドユーザーの方々に、不要になった、あるいは期限切れの医薬品や鋭利物を安全に返却・廃棄するための教育を支援しています。必要に応じて、改善計画や改善ロードマップを含め、未使用の医薬品や鋭利物の回収活動に関する基本的な理解を引き続き向上させます。医薬品の回収プログラムに参加することで、環境に放出されるかもしれない医薬品の量も、人々が不要な薬剤に触れてしまう可能性も、減らすことができます。</p> <p>タケダ社外の医薬品回収プログラムへの支援は、現在、米国、ブラジル、カナダで行われています。PPSWG では、タケダからの参加と協力を通じて、不要な薬剤や鋭利物を含む医薬品の回収を実現しました。他の地域の同様のプログラムを支援することについても、現在検討を続けています。</p>

医薬品の安全性（続き）

<p>HC-BP-250a.5</p>	<p>現行 GMP (current Good Manufacturing Practices)違反に対して実施された FDA による強制措置の件数（種類別）</p>	<p>非公開</p>
---------------------	---	------------

偽造医薬品

<p>HC-BP-260a.1</p>	<p>サプライチェーン全体で製品のトレーサビリティを維持し、偽造を防止するための方法と技術の説明</p>	<p>タケダは患者さんの安全を確保するため、リスクに基づく包括的な手法を積極的に用いて、偽造医薬品、違法医薬品、その他不正が疑われる医薬品の危険性を見つけ出し、適切に対処しています。そのために特別に設置された偽造薬品対策チームは、戦略的手法を用い、社内の関連部署および外部機関と協力して、この使命を実行しています。</p> <p>タケダの偽造薬、模造薬および医薬品の違法取引に対する基本方針は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 国内および国外の法執行機関、規制当局、他の製薬企業、業界団体と積極的に協力して、偽造医薬品や違法取引と戦う一方で、患者さん、取引企業、そして医療関係者などに偽造医薬品や違法取引に関する危険性について啓発します。国際製薬団体連合会（IFPMA）の“Fight the Fake（ニセ薬に気をつけろ！）”キャンペーンや安全なオンライン薬局連盟（ASOP）などとのパートナーシップを通じ、患者さんを啓発する草の根活動に寄与します。 ■ 世界中の取引企業に対して常時、高度な安全性基準や要件を設定し、これらの要件に照らして精査（デュ ーデリジェンス）と監査を行います。 ■ 医薬品の偽造、盗難や流用、改ざんを検知し事前に防ぐため、製品とパッケージ用の革新的な不正防止策を評価・開発・導入します。 ■ 違法オンライン薬局など違法インターネット取引の積極的モニタリングおよび介入など、タケダ製品の違法取引に関わる疑いのある組織を継続的に検知・調査し、証拠を収集します。 <p>詳しくは、「偽造医療製品に対するタケダの見解」をご覧ください。</p>
<p>HC-BP-260a.2</p>	<p>偽造品に関連する潜在的または既知のリスクを顧客およびビジネスパートナーに警告するプロセスの説明</p>	<p>国内および国外の法執行機関、規制当局、他の製薬企業、業界団体と積極的に協力して、偽造医薬品 や違法取引と戦う一方で、患者さん、取引企業、そして医療関係者などに偽造医薬品や違法取引に関する 危険性について啓発します。国際製薬団体連合会（IFPMA）の“Fight the Fake（ニセ薬に気をつけろ！）”キャンペーンや安全なオンライン薬局連盟（ASOP）などとのパートナーシップを通じ、患者さんを啓発する草の根活動に寄与します。</p> <p>詳しくは、「偽造医療製品に対するタケダの見解」をご覧ください。</p>

偽造医薬品（続き）

<p>HC-BP-260a.3</p>	<p>偽造品に関する襲撃、押収、逮捕や刑事告訴の原因となった訴訟の数</p>	<p>これは、組織として追跡および開示すべき重要な指標とはみなされていません。しかしタケダでは、法執行機関、規制当局、同業他社、業界団体と積極的に協力しながら、偽造医薬品に対する取り組みを実施しています。</p>
---------------------	--	--

倫理観に則ったマーケティング

<p>HC-BP-270a.1</p>	<p>虚偽のマーケティングクレームに関する法的手続による金銭的損失の総額</p>	<p>この指標の開示については、2024年版 ESG データブックをご覧ください。</p>
<p>HC-BP-270a.2</p>	<p>製品の適応外使用のプロモーションを管理する倫理規定の説明</p>	<p>私たちは、タケダ製品およびタケダ製品で治療または予防する疾患について、客観的で正確な情報を提供します。私たちは、タケダ製品およびタケダ製品で治療または予防する疾患に関する情報を提供する責任を負っています。私たちが、広告、プロモーションまたは教育的活動を通じて情報を提供する場合、適用される要件に従い、適切なコミュニケーション・チャンネルを使用します。また、情報提供の際、デジタルや対面などいかなるチャンネルを使用する場合も、私たちは情報が正確・公正で、バランスのとれた、科学的な根拠に基づいたものであるようにします。私たちは、患者さんと医療関係者の関係を尊重します。患者さんが治療に関する事項について私たちに尋ねてきた場合には、私たちは医療関係者による助言を求めるよう促します。私たちは、決してタケダ製品の承認された効能効果外の販売促進を行いません。不適切な販売およびマーケティング慣行（適応外プロモーションを含む）は、気づいた時点で倫理・コンプライアンス部に報告しなければならない懸念事項のカテゴリーとして、「問題の報告および処理に関するグローバルポリシー」に具体的に記載されています。</p> <p>そして、倫理観の醸成やコンプライアンスを促進するため、チーフ エシックス&コンプライアンス・オフィサーおよびリス (CECO) ク・エシックス&コンプライアンス・コミッティー (RECC) を設置し、両者が協働して倫理およびコンプライアンス事案を全社的なアプローチで対応する体制を構築しています。すべてのグループ会社においてタケダ・グローバル行動規準および関連するグローバルポリシーと現地の規則に則って、エシックス&コンプライアンス・プログラムの実行と強化を推進しています。これらのポリシーはビジネス&サステナビリティ・コミッティーにより承認されたものです。</p> <p>エシックス&コンプライアンス・プログラムにおいて、研修や教育は重要な要素です。新たに入社した従業員は、グローバル行動基準、贈収賄禁止ポリシーなど、従業員がとるべき行動に関する標準業務手順書 (SOP) についての研修を受けます。既存の従業員は定期的な再教育と再研修を受けています。</p>

従業員の採用、育成及び定着

HC-BP-330a.1

科学者や研究開発人材の人材確保・定着の取組みについての説明

世界で起こるさまざまな出来事を背景に、ここ数年で創薬のプロセスも働き方も変わってきました。この変化に対応すべく、タケダでは、人材の募集、採用、開発、定着に関する方法、臨床試験の方法、患者さんへのアプローチを大きく変えています。タケダの目指す未来や価値観に沿って、そして優先度とプロセスをシンプル化した上で、ここで紹介する取り組みを進めることで、現在の従業員やこれから入社する人々にとって理想的な働き方を実現していきます。

社外においては、科学分野での信頼性の構築と持続性の強化を目的として、科学的フィランソロピープログラムを実施しています。科学分野のイノベーターを表彰するプログラムでは、タケダの主要疾患領域を対象に、有望な若手科学者と優れた成果を創出したベテラン科学者を毎回認定し、その両方に相当額の資金援助を提供しています。さらに、科学・技術・工学・数学（STEM）に注力する組織に資金面やその他の支援を提供する活動も継続的に実施しています。社内においては、便利なテクノロジーや活動しやすいワークスペース、柔軟な働き方モデルを通じて、各種の研究開発を実施しやすい環境を整えています。柔軟な働き方モデルで重視しているのは、さまざまな働き方に対応できること、そしてその業務を最も効果的に実施できることです。また、データを活用したプログラムと目的に沿ったテクノロジーを通じて、従業員同士がいつでもつながり合える環境をつくり、職場のコラボレーションと包括性の拡大を後押ししています。さらに、ウェルビーイング、人材開発、多様性、公平性、包括性（DE&I）に関する、人を中心としたプログラムに注力することで、人材の獲得、育成、定着を促進し、患者さんへのより良い成果の創出につなげられるよう努めています。

人材の獲得 - 研究開発

研究開発部門では、極めて優秀な人材を常に引き付け、獲得し続けています。それは、人と価値観を中心とする私たちの企業文化には、どのような環境においても一定の関心があることの何よりの証明です。私たちは、人を育て、そのキャリア目標の達成を応援することもたいへん重要だと考えています。そのため 2023 年度は、社内からの人材採用の拡大を KPI に設定し、実際にその目標を上回る実績を挙げました。具体的には、研究開発部門における 2023 年度の人材採用のうちの 24%は社内採用で、対前年比では 30%の増加となりました。そうして 2023 年度は、新たに 830 名のフルタイム従業員と 133 名のサマーインターンを採用して部門を拡大させ、その一方で採用にかかる日数は 5%弱縮め、85.93 日から 81.68 日にすることができました。

2023 年度は新しい技術を導入したほか、プロセスも改善し、さらには採用している DE&I のベストプラクティスもこれまでより増やすことで、採用担当者や管理者、候補者がより良い環境で採用プロセスを進めていけるようにしました。そうした取り組みの一部を以下に紹介します。

- AI を活用した採用スコアプラットフォームを通じて、キーワードやスキルで候補者をランク付けすることで、採用時の客観性を向上させています。
- Survale（アンケートツール）を利用して、採用管理者と候補者の採用過程を評価しています。導入から 6 カ月間で、社内候補者の満足度が向上したこと、そして採用管理者から一定の満足度を得られたことが確認できました。
- AI 搭載のプラットフォーム「Workday Jobs Hub」で、従業員が社内の空きポジションを確認できるようにしています。
- 米国でのオファープロセスの改善と Workday の自動化により、オファープロセスの合理化と迅速化を図りつつ、オファーレターをより正確なものにしています。これにより 2024 年度は社内オファーが増える見込みです。

- 採用面接の改善に向けて、業界最高峰に位置づけられるプロセスを取り入れています。これにより、DE&I の目標に沿って、候補者と採用管理者が常に一貫したプロセスで快適に採用に臨めるようになります。
- タケダ・リーダーシップ・ビヘビアに沿った行動をとっているかどうかに基づいて、ディレクター層およびエグゼクティブ層の候補者の評価および選定を実施しています。
- 米国の職務記述書の報酬項目に透明性を持たせることで、報酬や賃金の公平性を促進しています。
- 「WHERE SCIENCE IS」キャンペーンを通じて、LinkedIn で記録的なエンゲージメントを創出しました。
- タケダの研究開発に関するナラティブに沿った、リサーチベースの新しい企業価値提案を作成しました。
- 欧州、日本、米国では DE&I および早期キャリアイベント、アジアでは DE&I の視点での採用面接トレーニングを実施しています。
- 採用代行 (RPO) パートナーと新たな取り決めを行い、合意内容を改善しました。

学習と人材管理 - 研究開発

従業員体験アンケートの結果でも繰り返し確認されている通り、研究開発部門の大半の従業員は、タケダのことを、誰もが活躍し、成長し、自身の力を伸ばしていける職場だと考えています。タケダでは、従業員からこうした信頼を獲得できるよう、空きポジションがあるときはまず社内の人材を探す、仲間の目標達成を後押しできる思いやりのあるリーダーを育成する、公平な機会の提供により従業員主導の生涯学習というタケダのキャリア成長哲学を促進する、といったベストプラクティスを採用し、うまく機能するように調整しています。

2023 年度には、さまざまな全社的プログラムを採用または強化してきました。例えば、ライブセッションおよびマイペースでの学習シリーズの内容を増やし、リーダー職の能力の一貫性確保および能力向上に努めたほか、次にエグゼクティブ層に入る可能性を持つ人材を育成するための Aspire プログラムも実施しました。さらに研究開発部門では、以下のような独自のプログラムをサポートすることで、従業員の好奇心を刺激し、包括性を促進し、女性リーダーの定着に寄与できるよう努めています。

- 6 カ月間のローテーション型達成プログラム：リーダー職を担う人材のパイプラインを多様化するためのプログラムです。マネジャー職の早期段階にいる 24 名の従業員 (Achiever) とスポンサーをペアにした上で、スポンサーは 2023 年度全体を通じて Achiever の成長をサポートし、より責任の大きなリーダー職を担えるように支援しました。
- GROW コーチングカリキュラム：2022 年度に導入された、研究開発のリーダーにおける重要スキルを強化するためのプログラムです。2023 年度は、そのワークショップを継続しただけでなく、「Be a Great Coach」プログラムを通じて全社にも展開させていきました。すでに研究開発部門のリーダーの 30% が GROW コーチングワークショップを修了し、93% がより効果的にコーチングできるようになると回答しています。
- 6 カ月間の研究開発メンターコネクション：2023 年度は、まずこのプログラムを通じて 3,100 時間がメンター活動に費やされました。その後は Career Navigator のメンターペアリング機能に引き継がれ、36 カ国で約 1 万 4,500 時間のメンター活動が実現しました。
- ナレッジ強化アカデミーシリーズ：科学、医学、臨床開発における技術の分野にフォーカスしたシリーズです。
- フィジシャンサイエンティスト推進プログラム：臨床経験と科学面の確かな実績を持つ医師を採用し、製薬企業での創薬というキャリアへの移行を支援します。

- 社外の WOMEN Unlimited プログラム：これに参加する 13 名の女性従業員を支援しています。
- 科学フォーラムセッション：創薬におけるディスカッションを促進し、新しいアイデアやアプローチの誕生につなげることを意図した取り組みです。

また、多様な従業員が持つ多様なニーズに対応するため、以下のような全社的プラットフォームも導入しています。

- The Spectra Rapid Intelligence Portal：タケダのパイプライン、疾患領域、その他の関連プロジェクトの今を科学および事業の視点で総合的に理解できるよう、学術誌への発表内容や臨床試験情報、学会、業界ニュース、市場/財務レポート、市場分析などの情報を集めています。
- Bloom 学習ライブラリ：従業員の知識とスキルセットを強化するためのポータルです。研究開発部門では、導入直後から多くの従業員がこれを利用しており、利用率は他の部門を上回ってタケダトップに位置しています。
- Career Navigator：AI 技術を活用した社内向け人材マーケットプレイスです。やってみたい職務やメンター、学習の機会、短期的なプロジェクトや企画を見つけることができます。研究開発部門は、成長志向が高いことで定評があるため、Career Navigator 試験運用の対象として選ばれ、アルゴリズムの最適化や推奨機能の改善に寄与しました。

多様性、公平性、包括性 (DE&I) - 研究開発

タケダには、私たちの価値観とデータに基づく 3 年間の包括的な研究開発 DE&I 戦略があり、2023 年度はその最終年でした。この戦略が奏功し、タケダの研究開発部門は理想的な職場として賞を受賞するまでに至りました。研究開発部門の従業員は自らの時間と知識を自主的に使い、職場および地域社会における DE&I の浸透と強化に力を注いでいます。そうした活動が認められ、2023 年度には 7 名の研究開発メンバーが社内のグローバル DE&I アワードを受賞しました。

この戦略には 4 つの柱があり、それぞれで以下のような大きな成果を創出することができました。

- 2021 年度に立ち上げられた R&D CAUSE ネットワークは、現在では 700 名以上の従業員が参加する組織に成長しました。参加者はそれぞれの時間と知識を自主的に使いながら協力して研究開発における DE&I 関連のソリューションを見つけ出そうとしています。
- 臨床試験プロトコルを定期的にアップデートしています。このアップデートには、新規臨床試験向けの多様性アクションプランの策定要件、複数の言語で作成する患者さん向け資料、すでに 34 の言語に対応している臨床試験ポータル、誕生時の性別と自認するジェンダーの両方を選択できるしくみ、臨床試験施設の質問票に伴う患者さんデータレポート、従業員ボランティアと各地域にある改善の機会とをつなぎ、健康の公平性を改善することで信頼関係や長期的な投資の礎を築く取り組みである「Communities As Partners」などが含まれます。
- つい最近、Catalyst ネットワークを立ち上げました。33 名のボランティアアンバサダーが、研究開発の各機能部門や疾患領域ユニット、ハブ拠点で活動し、私たちが取り組むすべての活動に DE&I の精神が正しく組み込まれるよう尽力しています。
- タケダの次世代アドバイザリーボードは、若手従業員やこの業界に入ったばかりの従業員の声を代表する 10 カ国 23 名の従業員で構成されており、全社的意思決定に仲間の声を届ける役割を担っています。このアドバイザリーボードに、研究開発部門からは 4 名の従業員が指名されています。
- 研究開発分野の取引先多様化推進ネットワークを立ち上げました。これは、メンタリングや教育、資本投資を通じて、さまざまな小規模取引先の意識向上やそれらの取引先への支援を行うことを目的としています。

- 研究開発部門の人材の多様化に努めています。具体的には、地域の非営利組織と提携し、社会的に恵まれていない地域から若手人材を獲得する、後継者プランニングを通じて幅広い後継者候補をつくる、外部組織との提携や社内のメンタープログラムを通じてキャリアの獲得機会の公平性を高める、定期的な研修や調査を通じてより包括的なチームを構築する、といった取り組みを実施しています。
- タケダ全社では、2027年までにエグゼクティブ層の50%を女性またはノンバイナリーとする目標を掲げていますが、研究開発部門では、これより早く2023年度第4四半期時点で、性自認が女性である人々の割合を50%にすることができました。
- さらに研究開発部門のディレクター層では48.7%が女性となり、最上位のリーダー職へと続くパイプラインを充実させつつあります。研究開発部門の一般従業員については、世界全体では53%が女性です。日本では、女性/ノンバイナリーの割合が2020年度第4四半期より4%増え、33%となりました。

研究開発部門ではDE&Iの推進に強い決意で臨んでいます。これからも現在の基盤を活かし、全社のグローバルDE&I目標およびコミットメントに沿って、これらの活動を強化していきます。

心身の健康（ウェルビーイング） - 研究開発

タケダの各「グローバルからローカル」プログラムでは、ウェルビーイングの4つの側面（感情的、身体的、経済的、社会的ウェルビーイング）に沿って、カスタマイズされたソリューションを提供しています。

- プラットフォーム「Thrive」では、オンデマンドのリソースや個人またはチームでの取り組みを通じて、ワークライフバランスをサポートし、一体感やレジリエンス（逆境に負けないしなやかな強さ）を高め、健康的なライフスタイルを促進し、お金に関する知識や管理能力の強化を通じてストレスの軽減に寄与しています。すでに研究開発部門の74%が「Thrive」に登録し、毎日の質問への回答数は8,200以上に及び、完了したマイクロステップ数は7,700以上に、従業員が参加するウェルビーイングチャレンジは44にのぼっています。
- 従業員支援プログラムを通じて、従業員が地域の資格を持つ専門家に、無料かつ秘密厳守で、生活の管理に関する相談を行えるようにしています。
- 感情のコントロールにより健康やパフォーマンスの改善を目指すアプリ「Calm」の利用を支援し、その支援対象を、すべての従業員とその家族、そして友人にまで広げています。研究開発部門では約30%の従業員がこのアプリに登録し、79%のエンゲージメント率を維持しています。
- 世界メンタルヘルスデーや疾患意識向上月間にあわせて、ツールやリソースを用意したり、教育を実施したりするなど、年次的な取り組みも行っています。

タケダの研究開発部門では、さまざまな背景を持つ人々が自由に活躍し、成長し、自身の力を伸ばしていけるような企業文化をつくらうとしています。これからも、従業員が声を上げれば、その声に耳を傾けて行動し、従業員の成功を後押しできるところに投資をしていくような、包括的で、公平で、機動性の高い職場の実現を目指していきます。

SASB 指標

タケダの開示

従業員の採用、育成及び定着（続き）

HC-BP-330a.2	(1) 自発的離職率と (2) 非自発的離職率： (a) 執行役員・上級管理職、 (b) 中間管理職、 (c) 専門職、 (d) その他の全従業員	この指標の開示については、 2024年版 ESG データブック をご覧ください。
--------------	--	--

サプライチェーンマネジメント

HC-BP-430a.1	Rx-360 国際医薬品サプライチェーンコンソーシアム監査プログラム、またはサプライチェーンと原材料の信頼性に関する同等の第三者監査プログラムに参加している (1) 事業体の施設と (2) Tier I サプライヤーの施設の割合	非公開
--------------	--	-----

企業倫理

HC-BP-510a.1	汚職や賄賂に関する法的 手続による金銭的損失の 総額	この指標の開示および計算方法の詳細については、 2024年版 ESG データブック をご覧ください。
--------------	----------------------------------	--

企業倫理（続き）

HC-BP-510a.2

医療従事者との交流に関する倫理規定の説明

タケダのすべての行動の根底には、タケダイズムという価値観があります。このタケダイズムは、「誠実」を中心に、「公平」「正直」「不屈」という精神で構成されています。そしてこの価値観を実践するため、タケダは「1. 患者さんに寄り添い（Patient）、2. 人々と信頼関係を築き（Trust）、3. 社会的評価を向上させ（Reputation）、4. 事業を発展させる（Business）」という優先順位に沿って日々の意思決定を行っています。当社は販売活動においても患者さんを中心に考える方針に従い、当社医薬品の処方・使用・管理・購入・推奨に対して不当な影響力を行使せず、報酬も提供しません。また当社医薬品の使用を勧めるために、金銭・贈り物・サービス・接待・その他有価物の提供も行いません。

この立場を明確に示すために、医療関係者および医療機関との交流に関するグローバルポリシー、患者および患者団体との交流に関するグローバルポリシー、公務員および政府機関との交流に関するグローバルポリシー、贈収賄禁止グローバルポリシー、行動規範を含むあらゆるグローバルポリシーを策定しています。これらポリシーに関するトレーニングは、タケダに入社後、30日以内に完了しなければならず、相互作用ポリシーについては2年ごと、[行動規準](#)と[贈収賄禁止ポリシー](#)については毎年研修を受ける必要があります。

また、各国の関連法、国際製薬団体連合会（IFPMA）コード・オブ・プラクティス、各地の業界団体が定めた行動基準などを遵守した活動を推進しています。医薬情報は適切な手段や媒体を通じて、正確かつ公正に、バランスの取れた方法で提供します。社内外のガイドラインに基づき、医薬品のプロモーション資材の見直しを実施しています。これらの評価は独立組織が行う場合があり、定期的なモニタリングも行っています。これらの評価とモニタリングは標準業務手順書（SOP）に基づいて行われます。

質問や懸念は、人事、法務、エシックス&コンプライアンス・オフィサーを通じて社内、または直接シニア管理職へ報告することもできます。すべての質問や懸念は、迅速に、機密に、そして敬意を持って対処されます。「[タケダ・エシックスライン](#)」は、タケダの価値観（バリュー）が守られていないと感じた場合に、従業員や一般の人々が質問や懸念を報告することができるものです。オンラインと電話で24時間、20の言語で受け付けています。また、必要に応じて、匿名での相談もできるようになっています。

当社の価値観およびグローバル行動規準に沿っていない行動または慣行に対しては、迅速にそして適切な措置が取られます。同様の問題が二度と起こらないよう、正しくない行いの根本原因を分析・理解することに努めています。私たちは、意識向上の取り組みを通じて、「声を上げる（Speak-up）」文化を推進し続けます。

詳しくは、[行動規準](#)または [Takeda.com](https://www.takeda.com) で、当社基準の遵守を確認するための仕組みをご覧ください。

アクティビティメトリクス

HC-BP-000.A	治療患者の数	<p>私たちは、世界中のあらゆる患者さんがタケダの革新的な医薬品を利用できるようにすることを目指しています。これを踏まえ、年に1度、医療制度が発展途上にある低中所得国（LMIC）において、タケダの医薬品アクセスプログラムや慈善アクセスプログラム、タケダがスポンサーやサポート役を務める臨床試験を通じて、タケダの治療薬やワクチンを利用した患者さんの人数を報告しています。</p> <p>過去のデータや第三者保証のスコアなど、当社の KPI に関する詳細は、サステナビリティ情報開示の「すべての患者さんのために」の各指標をご覧ください。</p>
HC-BP-000.B	(1) ポートフォリオと (2) 研究開発中（フェーズ 1~3）にある医薬品の数	<p>当社のポートフォリオとパイプラインについては、こちらから最新の四半期ごとの決算情報をご覧ください。</p>

免責事項

留意事項

本注意事項において、「本報告書」とは、本報告書に関して武田薬品工業株式会社（以下、「武田薬品」）によって説明又は配布された本書類並びに一切の口頭の報告書、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本報告書（それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。本報告書により株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法の登録又は登録免除の要件に基づいて行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本報告書は、（投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく）情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で（受領者に対して提供される追加情報と共に）提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性があります。武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本報告書において、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使用されていることがあります。同様に、「当社（we, us 及び our）」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあり得ます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあり得ます。本報告書に記載されている製品名は、武田薬品又は各所有者の商標又は登録商標です。

将来に関する見通し情報

本報告書及び本報告書に関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む武田薬品の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする (targets)」、「計画する (plans)」、「信じる (believes)」、「望む (hopes)」、「継続する (continues)」、「期待する (expects)」、「めざす (aims)」、「意図する (intends)」、「確実にする (ensures)」、「だろう (will)」、「かもしれない (may)」、「すべきであろう (should)」、「であろう (would)」、「かもしれない (could)」、「予想される (anticipates)」、「見込む (estimates)」、「予想する (projects)」、「予測する (forecasts)」、「見通し (outlook)」などの用語若しくは同様の表現又はそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。これら将来見通し情報は、多くの重要な要因に関する前提に基づいており、実際の結果は、将来見通し情報において明示又は暗示された将来の結果とは大きく異なる可能性があります。その重要な要因には、日本及び米国の一般的な経済条件を含む武田薬品のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、関連法規の変更、臨床的成功及び規制当局による判断とその時期の不確実性を含む新製品開発に内在する困難、新製品及び既存製品の商業的成功の不確実性、製造における困難又は遅延、金利及び為替の変動、市場で販売された製品又は候補製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念、新規コロナウイルス・パンデミックのような健康危機、温室効果ガス排出量の削減又はその他環境目標の達成を可能にする武田薬品の環境・サステナビリティに対する取り組みの成功、人工知能 (AI) を含むデジタル技術の統合をはじめとする、業務効率化、生産性向上又はコスト削減に向けた武田薬品の取り組み、その他の事業再編に向けた取り組みが、期待されるベネフィットに寄与する程度、武田薬品のウェブサイト (<https://www.takeda.com/jp/investors/sec-filings-and-security-reports/>) 又は www.sec.gov において閲覧可能な米国証券取引委員会に提出した Form 20-F による最新の年次報告書並びに武田薬品の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。武田薬品は、法律や証券取引所の規則により要請される場合を除き、本報告書に含まれる、又は武田薬品が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本報告書における武田薬品の経営結果及び情報は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想、保証又は見積もりではありません。

財務情報及び国際会計基準に準拠しない財務指標

武田薬品の財務諸表は、国際会計基準（以下、「IFRS」）に基づいて作成されております。本報告書及び本報告書に関して配布された資料には、Core 売上収益、Core 営業利益、Core 当期利益、Core EPS、CER（Constant Exchange Rate：恒常為替レート）ベースの増減、純有利子負債、EBITDA、調整後 EBITDA、フリー・キャッシュ・フローのように、IFRS に準拠しない財務指標が含まれています。当社経営陣は業績評価並びに経及び投資判断を、IFRS 及び本報告書に含まれる IFRS に準拠しない財務指標に基づいて行っています。IFRS に準拠しない財務指標においては、最も良く対応する IFRS 財務指標では含まれることとなる、又は異なる数値となる一定の利益、コスト及びキャッシュ・フロー項目を除外しております。IFRS に準拠しない財務指標は、IFRS に準拠するものではなく、付加的なものであり、また、IFRS に準拠する財務指標に代替するものではありません（IFRS に準拠する財務指標を「財務ベース」指標として参照している場合があります）。投資家の皆様におかれましては、IFRS に準拠しない財務指標につき、その定義と、これらに最も良く対応する IFRS 準拠財務指標をご参照くださいますようお願い申し上げます。なお、2024 年 6 月 30 日に終了する四半期より、武田薬品は(i) 超インフレ国にある子会社の業績に対する CER 調整方法を変更し、IAS 第 29 号「ハイパーインフレ経済における財務報告」と整合した業績で報告するとともに、(ii) 現在のフリー・キャッシュ・フローを「調整後フリー・キャッシュ・フロー」へ名称変更いたします（併せて営業活動によるキャッシュ・フローから有形固定資産の取得に係るキャッシュ・フローを控除したものを「フリー・キャッシュ・フロー」として報告いたします）。投資家にとってのコア財務指標の有用性には、一例として、以下の限界があります。すなわち、(i) 製薬業界における他社を含む、他社において用いられている類似の名称を付した財務指標とは必ずしも同一ではありません、(ii) 無形資産の売却や償却などの非資金費用の影響を含む、武田薬品の業績、価値又は将来見通しの評価において重要とみなされる可能性のある財務情報や事象が除外されております、(iii) 将来にわたって継続的に発生する可能性のある項目又は項目の種類が除外されております（ただし、武田薬品の方針として、事業運営に必要な経常的に発生する営業費用の支出については調整していません）、(iv) 投資家が武田薬品の業績を理解する上で重要とみなす可能性のあるすべての項目が含まれていない、又は、重要とみなさないであろうすべての項目が除外されていない場合があります。

為替

本報告書では、特に断りのない限り、利用者の便宜のために、日本円で表示された一部の金額をニューヨーク連邦準備銀行が 2024 年 3 月 29 日に認定した正午時点の買値レートである 1 米ドル=151.22 円で米ドルに換算しています。これらの便宜的な換算に使用された買値レート及び換算方法は、当社の連結財務諸表に使用される IFRS の換算レート及び換算方法とは異なります。これらの便宜的な換算は、関連する日本円のコア金額が当該買値レート又は他のレートで米ドルに換算されうることを示すものではありません。

医療情報

本報告書には、製品に関する情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではなく、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。



武田薬品工業株式会社

グローバル本社

〒103 - 8668

東京都中央区日本橋本町二丁目1番1号

TEL : 03- 3278- 2111 (代表)

FAX : 03- 3278- 2000 (代表)

takeda.com

© Copyright 2024 Takeda Pharmaceutical Company Limited.
All rights reserved.